

発行／坂城町公民館 発行人／塚田 常昭 編集／広報部 印刷所／滝沢印刷（同）
〒389-0602 長野県埴科郡坂城町大字中之条2468 文化センター内
TEL.0268-82-2069 FAX.0268-82-8722



ライフ・ステージエコー2022

1月8日（土）、若きミュージシャンの皆さんのパワーが一体となったビッグバンド「大都ジャズオーケストラ」によるコンサートが坂城テクノセンターで開催されました。

スウィングジャズからビバップ、ボサノバジャズなど、幅広いプログラムが演奏され、観客の皆さんは迫力のあるジャズ音楽を楽しんでいました。

❖主な内容❖

ふるさと探訪PART112	2P～4P
第二十六回更埴地区短詩型文学祭	5P～6P
第五十五回坂城町書初展、500字リレー	7P
お知らせ、館説「開畝」	8P

～桜めぐりと文化財(その2)～

PART 109 に続き、第二弾をお届けします。今回も3か所を選びました。お花見を楽しみながら、ふるさとの歴史や文化に触れてみましょう。

1 耕雲寺

曹洞宗龍田山耕雲寺は、洞岩沢によってできた扇状地の扇頂部に位置し、背後の陣場鳥越山、太郎山に抱かれるようにして建っています。参道は一五〇mにわたる杉並木で、町の天然記念物に指定されています。かつては百本余りあったとみられ、逐次植え継ぎをし、現在も七十本以上が参道とその周辺に立ち並んでいます。昭和四九年（一九七四）の指定当時、樹齢の長いものは、三百年に届くと推定されました。参道入り口に立つ石幢二基のうち一基に「元禄二己年」（一六八九）と刻まれており、杉もそのころ植えられたと考えると、令和四年現在では、三百年を超えています。（写真1）

杉並木を抜けると、石段の上には山門が見え、石段の右側で大きな枝垂桜が迎えてくれます。左側には「不許葦酒入山門（葦酒山門に入るを許さず）」と彫られた結果石が立っています。石段を上る途中から、山門の奥にも枝垂桜が揺

写真1 耕雲寺杉並木



れて見えます。「竜田山」の扁額が掛かる門をくぐって境内へ。左手に枝垂桜、その奥に僧堂・衆寮、右手には鐘楼と庫裡、そして正面に最も大きな建物が見えます。耕雲寺の本堂です。扁額には「阿蘭若」と書かれています。『広辞苑』によると、「人里から離れた修行するのに適した閑静な土地。また、そこに作られた庵など。」を意味するサンスクリット語だそうです。私たちの目を楽しませてくれる杉並木や枝垂桜は、修行の場を構成する要素とも言えましょう。この本堂は寛政十二

年（一八〇〇）に建てられたもので、本尊の釈迦牟尼仏が安置されています。（写真2、3）

耕雲寺は、寛文六年（二六六六）に現在地へ移転



写真2 山門下の枝垂桜



写真3 本堂と枝垂桜

するまで、横尾地区の字北玄古にあったと伝わります。元和年間（一六一五～一六三三）に玄古という僧がたばこの種を携えて寺に入り、この地にたばこ栽培を広めました。このたばこは「玄古たばこ」と呼ばれ、江戸でも知られる銘柄となりました。玄古の墓は北玄古の墓地の一角にあり、周辺には南玄古、上玄古という字名が残っています。

2 成福寺

鬼峰山成福寺は、山金井に所在する、町内唯一の真言宗の寺です。本尊は薬師如来で、現在は住職を置いていません。（写真4）



写真4 参道の桜並木と石仏

南条小学校方面から仁王坂をのぼると、突き当たりに石段と、その上に参道の桜並木が見えます。石段の脇に勢至菩薩、参道の両脇に頭部のない地藏や二十三夜塔が建つなど、境内には石造文化財が多く残り、特徴的なものばかりです。住宅地のすぐそばにありながら、霊場の雰囲気は漂います。地藏の頭部がないのは、明治元年（一八六八）の神仏分離令をきっかけに起こった廃仏毀釈運動により、仏像の頭部を落とす行為が横行したためです。本堂寄りの北側の桜の木の下には、少し変わった石造物が。かわいらしい僧侶が描かれています。『坂城の石造文化財』には「鳥獣供養塔」と記載されています。躍動感のある線刻で、ちようど僧侶の口のあたりが窪んでいるため、しゃべっているように見えますね。動物の供養のため、お経をあげているのでしょうか。（写真5）

成福寺は、江戸時代の安

永二年（一七七三）に建てたお堂から始まったといわれますが、境内に五輪塔の一部とみられる石塔のかけらが多数あることから、中世まで遡るか、周辺に中世から続く霊場があったものと思われる。現在建つ本堂は、明治九年（一八七六）に火災で焼失したのち、翌年に再建したものです。明治六年から焼失までは、金井学校の校舎として使用されました。金井学校の校舎配置図には、本堂のほか、現在の本堂の位置に護摩堂、その南に観音堂が描かれています。

成福寺には、男谷彦四郎と石黒忠恵の遺墨が残っています。



写真5 僧侶が描かれた鳥獣供養塔

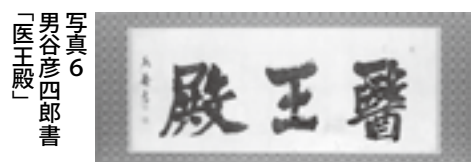


写真6 男谷彦四郎書「医王殿」



写真7 石黒忠恵書「鬼峯山」

います。（写真6、7）男谷彦四郎は、文化一〇年から文政三年（一八二一）まで中之条代官を務めました。燕斎の号を持ち、幕府の表祐筆も務めた能書家でした。扁額に力強い筆遣いで「醫王殿」と書いています。医王（醫王）とは、薬師如来の異称です。現在は隣接する山金井公民館に収蔵されています。

石黒忠恵も、中之条代官所に縁の人物です。安政四年（一八五七）、十三歳の時に、木村董平代官の手代であった叔父が中之条に赴任する際、母と共に同行し、

叔父と同居しながら勉学に励みました。中之条の中島銀右衛門に学んでいます。翌年に母が病死し、成福寺で亡骸を火葬に付しました。そうした縁からか、本堂の扁額「鬼峯山」を揮毫しています。署名に「従三位勲一等男爵」とあることから、明治四〇年頃、忠恵が60歳を過ぎた頃の書だと思われます。

3 常山隄及び常山隄碑

常山隄は、字四反田に残る江戸時代の堤の一部です。四ツ屋で国道18号線としての鉄道の交差する辺りから西に向って一三〇mほど伸びています。現在は堤防の内側になり目立ちませんが、桜が開花すると遠くからでもその位置がわかります。常山隄には見事な桜並木があるのです。

並木の中に、「常山隄碑」という大きな石碑が建っています。弘化二年（一八四五）の常山隄完成を記念し、その由来を刻んだものです。常山隄と共に、町指定文化



写真8 常山隄碑と桜



写真9 西から臨む常山隄

財に指定されています。（写真8、9）

碑文は、次のようなことを伝えています。この地は千曲川の水が激しく当たる場所で、大雨で氾濫するた



常山隄の図（『坂城町誌 中巻』より）



写真 10 令和元年東日本台風による被害（左に坂城頭首工、右に坂城大橋）

びに農地が被害を受けていました。そのたびに堤防を築くものの一、二年で崩れてしまい、特に天保十二年（一八四一）の大洪水では、坂木宿の岸辺が崩れるほどの被害が出ました。農民らと中之条代官が合議して幕

府に願い出たところ、工役として佐藤嘉長が派遣されてきました。嘉長は、大堤防を築き、堤の端に巨石を重（畳）ね、水を鎮めると宣言します。そして官民一体となり、五年をかけて大堤防が築かれました。嘉

長はこの堤を「常山隄」と名付けます。中国の「孫子」の中に、「常山という山にすむ蛇は、頭を打てば尾が反撃し、尾を打てば頭が反撃し、首尾が助け合う」という故事に例えて戦の心得を説いた話があり、嘉長はこ

れるということでした。常山隄碑の背面には、「堤首畳石記」とあり、堤の要である畳石の工事のため、下戸倉宿（千曲市）の坂井寛・柳沢久忠から資金援助を受けたことが刻まれています。碑文には堤の大きさが記

されています。だからこそ、先人たちは碑を建て、水害と闘ってきたことや、それに打ち勝つために大堤防を築いた労苦を、忘れ去られぬようにしたのでしょう。桜に招かれて、先人の想いに触れることができました。

おわりに

石や植物は声を持っていません。文化財の方から皆さんに声を掛けることはできないのです。でも近寄ってよく見てみると、それに携わった人々の想いを伝えてくれます。桜の木のそばでは、様々な文化財が静かに待っています。お花見に出かけたら、そのことを思い出してください。ふるさとの豊かな歴史に触れることができますでしょう。

（本間 美麻）

れを念頭に名付けたのだといひます。川原に横たわる堅固な堤を、常山の蛇に見立てたのでしようか。嘉長は、この労苦を忘れぬよう、毎年祭礼を行い、そのたびに水中の巨石（畳石）に大石を重ねて置くことを民に言い聞かせます。それによって、堤がますます堅牢になり、神

の加護も得られたといふことでした。『長野縣市町村誌』にみえる明治十一年ごろの坂木村の記述には、常山隄について「南の方字中道より、曲線の形をなし、西の方東柳原に至る」とあります。現存する常山隄跡から、役場庁舎付近に至る大堤防であったようです。また、『坂城町誌 中巻』に載る図面には、何か所か千曲川に向って直角に突き出す姿が見えます。ここに記された数字を足すと、総延長は約五百間（九〇五m）にもなります。

ここに、令和元年東日本台風時の河川敷写真があります。（写真10）台風が過ぎ去った十月十三日の朝、常山隄附近から撮影した写真を繋ぎ合わせたもので

第二十六回更埴地区短詩型文学祭入賞作品

更埴公民館運営協議会（坂城町と千曲市で構成）において、第二十六回更埴地区短詩型文学祭を開催し、短歌の部、俳句の部、川柳の部、現代詩の部の各賞が決定しました。

坂城町の入賞作品を紹介します。敬称は略させていただきます。

一般の部

「短歌の部」

◆佳作

びしょぬれて下校せし児の涙顔
思わず抱けば雷鳴とどろく

横田 徳子（網 掛）

◆入選

枕経庭の蛸唱和して
沸き起こり来る兄の思い出

塚田 茂子（上五明）

「俳句の部」

◆入選

皺の手を静かに合わす終戦日
竹内 文（網 掛）

眼鏡拭く八十路の坂や初明かり

中島 照代（中之条）

「川柳の部」

◆佳作

支え合い補い合つて暮らす老い
春日とよ子（網 掛）

やさしさに触れて笑顔をとり戻す

小宮山洋子（中之条）

◆入選

天職は無いがひたすら土と生き
中島てるよ（中之条）

「現代詩の部」

◆更埴地区短詩型文学祭大賞

風

小宮山敬子（網 掛）

風が吹くと
水たまりの空が震える
梅の枝の小鳥がジャンプして
雀おどしのカンカラが鳴って
「朝ですよー」
秋海棠の花たちは
おしやべりを始める

埃をかぶった
古いアルバム
きのうの自分
胸のざわめき

炊飯器のふたを開けると
炊きたてのご飯のにおい

きゅうりを切つて
トマトを並べて

窓を開けると
さーっつと

今朝の風が入ってくる

◆更埴公民館運営協議会長賞

後線

沓掛喜久男（横 町）

山なみの後線は語で曳く

まなかの棲家に

残酷な青春があり

未知の老耄がある

日付のない日誌の
頁がすすむ

山の向こうの

非常事態宣言は

無情に終了

風が落ち鐘が鳴る

晴れの日の認知症に
「きよなら」は残しおく

後線は三百六十度

細く太く薄く濃く曳く

◆佳作

秋明菊

石関みち子（込 山）

雨の晴れ間に草を取っていたら

―あんだ― いくつになんさる

汗だらけの顔をあげると

シルバー・カーを押している人が立つ
ていた

この辺りを行来する人何人かが顔見
知りだが

知らない顔だ

―あ、同じだ― そうかいそうかい
草取りは大変だね

それだけ言って 行ってしまった

―おいつつですか

ママに抱かれた赤ちゃんに

声かけることはあるけれど

そんな機会もほとんどなくなつた

通う病院も高齢者が多いもの

お年はいくつなんぞと聞かれて
まるで子どもの頃みたいじゃないか
あちこちガタがきてるけど
まだ もう少し生きていくつもりだ
秋明菊が ホラ咲きはじめたよ

◆入選

2021年春りんご畑で

吉田 超（込 山）

リンゴの花が満開だ
白い花がリンゴ畑をおおい
薄く甘い香りが漂い
マメコバチたちが飛び回っている

なのに 僕らはため息ばかり
いつもなら 摘んだ花で 白い絨毯
なのに

花が少ない 中心花が3分の2ない
暖かすぎた冬、2―3月の平均気温
が3度も高かった

急いで動き出した花芽を
4月の遅霜が 襲った

前年の夏に生まれた花芽は
冬の休眠期を経て 春に発芽する
つぼみを包んだ8―10枚の葉が開き
その中から ピンク色の6―7個の
つぼみが頭を出す
真ん中の花が中心花 周りの花が側花

ふつう中心花が 大きく良い果実となる

リンゴ農家は 売れるリンゴを作ろうと
花摘み・粗摘果 本摘果 見直し摘果と
秋まで3回 木と向き合い 手で摘んでいく
100個のリンゴを収穫するために
2000を落としていく

「こんな年は 今まで なかった。
切ないねえ」
「農業は 自然半分人間半分だから
仕方ないねえ」
「残ったもの精一杯やって 来年まつ
さ」
何十年もリンゴづくりをしてきた農
夫たち
花を摘む手が 止まる

地球温暖化と異常気象
記録的な暖冬 猛暑 集中豪雨 干
ばつ…

コロナ禍 高齢化…
この3～5月 長野県内農作業中死
亡事故5件

リンゴ畑は どうなっていくのだろう
仲間たちと共に 今年どう乗り切っ
ていくか
地球温暖化と どう向き合い
明日を作っていくのか

破けた長靴で 三脚を上がったり下
がったり

変調きたしたリンゴの木で
一つでもよい果実をと 摘果作業を
している

『鳥がまた帰ってくると ああ春が
きたなと思う
でも朝早く起きても 鳥の声がしな
い。』
それでいて 春だけがやってくる』
レイチエル・カーソン

『沈黙の春』より

2021年
信州は厳しいリンゴづくりに なり
そうだ

小学生の部

「俳句の部」

◆佳作

雨あがり大きなじが笑ってる
村上小学校 五年 柳澤 蓮

外であればいつてらっしゃいせみが言う
村上小学校 五年 川島 美咲

「川柳の部」

◆奨励賞

夏の空アイスクリーム見つけたよ
村上小学校 六年 ホシハライタル

◆佳作

ドンドンと空で大きな花が咲く
村上小学校 五年 平林 風

さかきまちしぜんやさしさあふれてる
南条小学校 五年 吾妻 蒼太

◆入選

かえるさんえきをたべずにしらんぷり
坂城小学校 二年 酒井 優芽

「現代詩の部」

◆佳作

じいちゃん
南条小学校 三年 山崎 春花

じいちゃんちに行ったらいつもおい
てあるまくらがなかった。
じいちゃんはいつもわたしがべん
きようをしているときにふえをふい
ていた。
わたしは、その話しをしてないた。
いつもいる場所にじいちゃんがいな
いとさみしい。
早く元気になってほしい。

◆入選

花火

火の花
南条小学校 三年 南澤 乃愛

さけさけ
夏の 夜の にわに
さいて ちつて
ちつて きえて
きえてもまだのこる
とじた 目の中に
ふしぎな 火の 花
今 さいた 花火

中高生の部

「短歌の部」

◆入選

行く先でマスクをつけずむする
若者たちに向けられた視線

坂城高校 三年 市村 拓己

「俳句の部」

◆入選

受験生田毎の月に願い掛け
坂城中学校 三年 山崎 陽大

「川柳の部」

◆入選

時の運試ししてみよう宝くじ
坂城中学校 三年 青木 雄慎

「現代詩の部」

◆佳作

いろ

坂城中学校 三年 山崎 陽大
野菜の緑に 川の青、花のピンクに
くだものの赤、
色 イロ いろ 色 いろいろないろ
アスパラの緑に アユの青、バラの
ピンクに リンゴの赤、
色 イロ いろ 色 坂城町のいろ



第55回 坂城町書初展

第55回坂城町書初展を1月4日～6日に文化センターで開催しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書初展のみの開催となりましたが、56作品が出品され、多くの皆さんに観覧していただきました。入賞された方々を紹介いたします。

敬称略

★坂城町長賞

坂城小5年 千野 桜依



★町教育長賞

南条小6年 池田 早良



★町書道協会長賞

村上小4年 松下 心玲



★中学生の部金賞

坂城中1年 玉井 里奈



坂城中2年 宮下 莉子



◆金賞

坂城小5年 宮沢 紗世
南条小1年 吾妻 丈優
南条小5年 吾妻 啓志
一 般 小出 真生
高 校 重倉 嶺

◆銀賞

坂城小3年 岩浅 采実
坂城小3年 黒田 樹那
坂城小4年 富山 心菜
坂城小6年 成澤 葵
南条小3年 大塚 柚
南条小5年 宮下紗里那
南条小5年 三井 陽登
南条小6年 蕨沢 侑海
村上小2年 中澤 心結
坂城中1年 岩戸 真一
坂城中1年 仙田 美月
坂城中2年 西澤 早絵
坂城中2年 宮沢 華奈
高 校 栗原 夏来
高 校 柳澤 光樹

◆銅賞

坂城小2年 成澤 岳
坂城小3年 仙田 祐月
坂城小3年 石倉 由麻
坂城小4年 成澤 凜
坂城小4年 鈴木 彩葉
坂城小5年 柳沢 美帆
坂城小5年 吉池 幸咲
南条小2年 中島美紀子
南条小4年 柳沢 美麗
南条小4年 重倉 凜
南条小5年 片山 太一
南条小6年 小宮山瑛太
南条小6年 中島 凜音
南条小6年 真柴 澄伶
村上小2年 荻原 心雪
村上小4年 星本 真希
坂城中1年 林 美咲
坂城中2年 片山 夏美
坂城中2年 栗原 莉来
坂城中2年 三井 恒輝
一 般 柳澤 謙二
一 般 宮島 郁子
一 般 栗原かず子



500字リレートーク

チャレンジ

西澤 優葵

コロナ禍になり生活が大きく変化しました。

以前のように気軽に旅行や、友たちとの交友、大人数でのイベントなど、人と直に触れ合う機会が少なくなり、我慢が強いられる期間を過ごしています。

20代前半、今がいちばん体力もあり、時間もあり

色々楽しめるかなと思っていた矢先のコロナ禍。多くの方々同様、少なからずストレスを抱える時期もありました。

しかし、せっかくなのでこの機会に今までやらなかったことをやろうと思い、約一時間ほどのランニングや、動画を見ながら自宅でトレーニングを2021年1月から始めました。

運動はもとより好きでしたが、高校を卒業して以来、全くと言っていいほど体を動かしてはいません。久々

の息切れ、程よく流れる汗、やはり最初は思うように体が動かない。でも疲労の奥に爽やかさや体がスッカリしたような感覚。

運動後の食事がいつもにも増して美味しく感じる。そしてよく寝れる。

三日坊主になるものかと気合を入れ、桜餅が美味しい季節、冷やし中華が美味しい季節、焼き芋が食べたくなる季節が過ぎ、そして鍋であつたまる季節。

なんと、一年続けることができました!!

できなくなったことで落ち込むのではなく、できることに目を向け喜んで行うことでこんなにも充実することができると実感しました。

次は、飯田美名さんです。



公民館文化講座

令和4年度文化講座の受講生を募集します。全講座初心者を対象としていますので、ぜひお申し込みください。なお、複数の講座の受講もできます

俳句	短歌	茶道 (表千家)	茶道 (裏千家)	書道	古文書	絵画
木彫	陶芸	コーラス	詩を楽しむ	郷土料理	季節の土物	盆栽

申込開始 4月4日(月) 8:30
※年度途中からの受講も受け付けます。

申請場所 坂城町公民館(文化センター2階)
※申込書は町HP、公民館にあります。
受講料を添えてお申し込みください。

受講料 1人1講座につき受講料3,000円

開講式 4月15日(金) 19:00～
文化センター1階大会議室
※講座の進め方などの打ち合わせを行いますので、必ず出席してください。

リトミック教室



音楽(リズム)を用いて人間形成に欠かせない「社会性」、「創造性」、「感受性」を育てる楽しい講座です。保護者と子どもで参加してください。

申込開始 4月4日(月) 8:30
期日 4月27日～2月22日 毎週水曜日(年間40回)
10:00～11:30

会場 文化センター大会議室

指導者 中沢敏江さん(リトミック研究センター特別講師)

対象 1歳～未就園児とその保護者(1歳未満は要相談)

受講料 8,000円 定員 20組

キッズスポーツ教室

軽運動や楽しいゲームなどで基礎的な身体づくり、コミュニケーションづくりをする講座です。

申込開始 4月11日(月) 8:30
期日 5月11日～3月8日 毎週水曜日(年間30回)
16:30～17:30

会場 坂城町武道館

指導者 長野体育指導センター指導員

対象 4・5歳児

受講料 15,000円 定員 30名

講座及び各教室の詳細は「まなびの玉手箱」をご覧ください。 問い合わせ先 電話82-2069(文化センター)



二十歳のつどい 実行委員募集中!

今年の8月15日(月)に開催を予定している二十歳のつどいの実行委員を募集しています。興味のある方は公民館事務局までご連絡ください。
該当者: 平成13年4月2日から平成14年4月1日生まれの方です。

説 開 館 敵

「咲いた。咲いた。チューリップの花が♪」

あたたかい陽射しに誘われるように、チューリップの花が咲き始めました。チューリップも桜と同じで、寒い冬を越すことによって、きれいな花を咲かせます。きれいな花が咲いたということは、この冬の寒さが厳しかったことを物語っています。

このチューリップの原産地は、どこだと思えますか? チューリップの背後に風車を取り入れた写真はよく見かけますから、多くのみなさんが「オランダ」と答えるのではないのでしょうか。しかし、原産地はトルコだそうなんです。チューリップのことをトルコ語で「ラーレ」といいます。どうして、「チューリップ」という名前になったのでしょうか。

「チューリップ」(Tulip)という名前は、中近東の人々が頭に被る布を巻いた帽子ターバンに由来すると言われていました。トルコ語でターバンを「ツリバン」(Tulban)といいます。オーストリアのトルコ駐在外交官ブズベックが、チューリップを見て、その名前をトルコ人にたずねました。ところが、トルコ人は花の形を聞かれたと勘違いしてしまいました。

「チューリップ」(Tulip)という名前は、中近東の人々が頭に被る布を巻いた帽子ターバンに由来すると言われていました。トルコ語でターバンを「ツリバン」(Tulban)といいます。オーストリアのトルコ駐在外交官ブズベックが、チューリップを見て、その名前をトルコ人にたずねました。ところが、トルコ人は花の形を聞かれたと勘違いしてしまいました。

す。そこで、チューリップはターバンに似ていると思い、「ツリバン」のラテン語訳である「チューリバン」と答えました。この「チューリバン」を外交官ブズベックが花の名前と勘違いしたまま、よそで紹介してしまいました。「チューリバン」は、その後「チューリップ」に変わり、現在の「チューリップ」に変化したといわれています。本来ならば、「ラーレ」という名前が世界中に広がるはずだったのですが、人間の勘違いによって「チューリップ」という全く別の名前が世界中に広がってしまった。

チューリップの名前は、何十年もかけて世界に広がりました。しかし、SNSが隆盛する現代社会においては、勘違いや間違った情報も瞬く間に拡散されてしまいます。最近では、ロシアによるウクライナ侵攻において、さまざまなフェイクニュースが拡散されていました。どんな時代においても、情報を発信する側も、情報を受け取る側も、その情報の真偽を見極めることがとても重要になっています。

正しくは、「咲いた。咲いた。ラーレの花が♪」となりそうです。が、慣れ親しんだ「咲いた。咲いた。チューリップの花が♪」がやっぱり落ち着きますね。

(参考資料…はな物語)
(T・T)